

資料番号	2
------	---

令和4年12月6日
課名 農林水産局農業経営発展課
担当者 課長 柴山
内線 3590

令和5年産主食用米の生産の目安について

1 要旨・目的

本県の令和5年産の主食用米の「生産の目安」を、広島県農業再生協議会が設定したので報告する。

2 現状・背景

平成30年産から都道府県別の主食用米の生産数量目標の配分が廃止されたため、広島県農業再生協議会では、需要に応じた主食用米の生産を目指し、県域で生産すべき量を「生産の目安」として設定し、公表している。

3 概要

(1) 全国の令和5年産主食用米の生産量の見通し（令和4年10月20日 国公表）

国は、令和5年産の主食用米について、需給均衡が図られる生産量（生産数量目標に代わる指標）を令和4年産と同水準の669万トンとした。

これは、令和4年産米において、全国的に作付転換が進み、令和5年6月の民間在庫量が適正となる見通しとなったことから、令和5年産においても令和4年産と同程度の生産を行うことにより、需給均衡が維持されることから設定された。

	生産量の見通し(5年産) ①	今年の生産実績(4年産) ②	今年の生産実績との差 ①-②
生産量	669万トン	670万トン	△1万トン

(2) 広島県の令和5年産主食用米の「生産の目安」

県域での「生産の目安」は、国が示す「生産量の見通し」を参考とした上で、県内の実需者からの聞き取りによる「県産米の需要見通し」を勘案し設定している。

県内実需者は令和3年産米の在庫を抱えているものの、全国の令和4年産米の生産量（670万トン）が適正生産量（675万トン）を下回ったことや、県内の令和4年産米の作付面積が前年から600haと大きく減少したことから、令和5年産の県産米の仕入量について、令和4年産の生産量と同程度の意向であった。

このため、令和5年産の「生産の目安」を4年産の生産実績と同じ111,800トンと設定した。なお、面積換算値については、令和4年産の作況は101（530kg/10a）であり平年を上回ったが、令和5年産の算定に用いる数値は平年収量（528kg/10a）であることから、今年の実績に対し74haの増加となる。

	生産の目安(5年産) ①	今年の生産実績(4年産) ②	今年の生産実績との差 ①-②
生産量	111,800トン	111,800トン	0トン
面積換算値	21,174ha	21,100ha	+74ha

(3) 今後の対応

主食用米については、需要に応じた生産を推進していくとともに、需要に対して供給が不足している非主食用米への作付誘導の取組を継続し、主食用米と非主食用米を合わせた水稲全体の生産拡大を図っていく。